熊本県立北稜高等学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価表

１　学校教育目標
「教育は人なり」の理念のもと、「率先垂範、師弟同行」を旨として、全職員相互の研鑽及び指導法の創意工夫を図り、一人一人の生徒の健全育成に邁進する。 １　伝統ある校風の継承と創造　　２　特色ある総合高校づくり ３　学力の充実と個に応じた進路指導　　４　教育環境づくりの推進 ５　人権教育の推進　　６　安全教育の推進 ７　地域社会から信頼される学校づくり

２　本年度の重点目標
１　愛情ある生徒指導　　２　基礎学力の定着　　３　個に応じた進路指導 ４　美しい環境作り　　５　安全教育の推進　　６　家庭・地域社会との連携強化

３　自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	職員の資質向上	はたらき方（学校）改革	業務負担軽減及び超過勤務の削減 学校行事の見直し	各業務の成果を検証し、業務内容の精選と教育活動の効果的な改善に取り組む。	B	昨年度に比べ超過勤務時間は減少した。個々の偏重の見直しや業務の精選についての工夫・改善は不十分である。
		教科指導力の向上	学習意欲を喚起する授業展開の工夫と主体的･対話的で深い学びを実現するためにアクティブラーニングを活用した能動的学習による基礎学力の向上と定着を図る。	・研究授業や公開授業を毎学期実施し、合評会や研究協議を行い、授業改善に向けた研修に取り組む。	B	ＩＣＴ機器の活用をし、言語活用・表現活動を取り入れた授業展開に努めている。授業週間の実施や教科研修に積極的に取り組んでいる。Ｒ４年を視野に新学習指導要領の改定に向けた準備に取り組んでいる。
		生徒指導力の向上	生徒一人一人の理解に努め、人格形成を支援する。	・職員間及び中学校との連携強化や校内職員研修等による生徒情報の共有と組織的支援体制づくり、カウンセリングマインドの養成。	B	教育相談部を中心に生徒理解研修をはじめ、学年・学科において多様な生徒に応じた指導や支援を行っている。組織的に一枚岩までは至っていない。
		保護者との信頼関係の構築	保護者と積極的にコミュニケーションを図り､信頼を得られるよう､教育実践を行う。	・課題を先送りにせずに、迅速かつ組織的に適切な対応に努める「報連相」。特に配慮を要する生徒や困り感のある生徒には個々に応じた誠実な対応を心がける。	B	学年主任等と連携しながら根気強く丁寧な対応を行っている。また、特別な配慮を要する生徒への支援もしっかりと行われている。人的加配が課題である。
	開かれた学校づくり	保護者・地域住民との連携	積極的に情報発信を行い、魅力ある総合高校としての推進を図る。また、学校行事に保護者等に参加を促し､地域関係機関との連携を図り､学校の魅力を理解してもらう｡育友会総会･学年行事等の出席率７０%以上を目指す。	・中高連携や高大連携及び企業間交流を実施する。 ・学校の行事や学習の成果などについて、ホームページ上のブログを毎日更新する。 ・農産物の販売や奉仕作業など、地域住民に生徒の活躍する姿をＰＲする機会を増やす。 ・学科ごとに中学校との交流事業を	A	情報システム部を中心に学科・教科・部活動等様々な情報発信を行い、対外的な活動としては、農業商業・家庭教科や太鼓部・ＪＲＣ部等を中心に積極的に行っている。 保護者と連携した新たな取り組みによる情報の交換や交流の手立てが必要である。 高校生デパートや田んぼアートプロジェクトをはじめと外部と

				実施する。 ・田んぼアート、若蔵、北稜フェア等の取組		の連携や交流も積極的に行っている。
学力向上	学習習慣の育成	基礎学力の定着	北稜タイムで「マナトレ」を有効に活用し、学習に落ち着いて取り組む雰囲気を醸成する。	・「マナトレ」を実施することで、つまずきのある部分を把握し、学習支援することで基礎学力を身につける。 ・週末の家庭学習課題（普通教科）を与え、学力向上を図る。	C	・北稜タイムで基礎学力を身につける取り組みを行っている。各学年の状況に合わせた取り組みで基礎学力等の向上が見られる。 ・家庭学習の課題を与え，学力向上を図り、基礎学力の向上にはつながっているが、一般入試に対応できる学力が身についていない生徒が多い。
	学力の向上	個別指導や発展的な学習指導の推進	個別指導による学習指導で欠点科目保持者をゼロに近づける。	・考査前指導、個人指導を充実させ、欠点科目保持者には長期休業中に学習会を実施する。	C	学習習慣がない生徒に対し、学年・教科で個別指導、学習会を実施しているが、思うように学力向上につながらない生徒がいる。
			発展的な学習をしようとする意欲を喚起する。	・模試や検定試験に積極的に取り組ませる。 ・新聞記事やコラムを活用し、社会に目を向けさせる。	C	・検定試験に積極的に取り組む生徒は多い。普通科以外の模試受検者を増やす必要がある。 ・学年や教科で新聞を活用し、社会に目を向かせる取り組みがなされたが、生徒の関心は高まっていない。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の啓発	進路の早期決定と目的意識の啓発	各学年･学科の連携と継続した進路指導の展開と全職員によるキャリアカウンセリングの実施。	・年間を通し職員に対するキャリアカウンセリングの啓発活動。進学ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に積極的な参加。	B	各種の行事やガイダンスには積極的に参加することができた。
	進路希望の達成	進路目標実現の進路保障	就職･進学体制の確立と進路目標達成１００％を目指す。	・全職員で情報の共有化を図り、組織として進路指導にあたり、受験対策のため、進路目的別の課外とともに個別指導の充実を図る。 ・企業訪問を積極的に行い、そこで得た情報を生徒への指導、支援に活かす。	B	多くの生徒の進路希望を実現できた一方で、100%の数値に達することができなかった。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	清々しい整容	整容指導にかかる継続指導の対象者をなくす。 地域の皆様から愛されるような清々しい制服の着こなしを目指す。	・整容指導に対する統一した意識を全生徒と全職員が持ち、自治自立の精神育成を目標に、厳しい中にも愛情を持って粘り強く指導する。 ・地域から愛され、信頼されることで自立と自信が持てるよう指導する	A	昨年度に比べ、整容に関する指導は減少した。担任をはじめ、学年や生徒指導部が連携し、根気強く指導した結果である。
		マナーの向上	あいさつや目上の人への言葉遣い･正しい道徳を身に付けさせる。 携帯電話の利用についてのマナー向上を意識付ける。	・積極的なあいさつや公共の場におけるマナー向上を機会あるごとに指導する。 ・「携帯電話利用ルール五箇条」を遵守するよう生徒会中心に呼び掛ける。	B	１年生への指導に苦慮している部分があるが、年度末になるにつれ、校外でのマナーや携帯電話使用上の問題も減少した。今後も見通しをもった自らの行動を心がけるよう指導したい。

人権教育の推進	学校全体で取り組む人権・同和教育の推進	人権教育の内容の充実	人権意識の確立を促す。授業や部活動、学校行事などの校内での生徒との関わりのみならず、家庭での様子を把握し、生徒を多面的に理解し、生徒と向き合う時間を確保する。	・授業やホームルーム活動、部活動や学校行事等、日々の関わりの中で、常に生徒達の人権を尊重した関わりを積み重ねる。 ・人権講演会や人権学習ＬＨＲを通し、人権について考える機会を重ねていく。	B	各学期１回の人権学習ＬＨＲと２学期に人権教育講演会を行い、生徒の人権意識を高めることができた。しかし、ハンセン病や水俣病問題等個別の人権課題に関する学習の時間が不足した。
		職員研修の充実	人権・同和教育に関する研修を通して人権感覚を磨き、人権意識を高める。またスクールカウンセラーの協力を得て、カウンセリングマインドを養う職員研修を実施する。	・生徒を多面的に理解し、人権感覚を磨くための校内研修を実施するとともに、校外における様々な人権教育の研修会への参加を促す。	A	教育相談部による生徒理解研修で職員の共通理解を図り、人権尊重の視点に立った教育活動を行うことができた。また、全員レポート研修を実施し、各自の実践を人権教育の視点で検証しあうことができた。
		特別支援教育の体制づくり	学習面、生活面における困り感を持つ生徒の支援を積極的に行い、学校における自立的生活を促す。	・職員の共通理解のもと、スクールカウンセラーとの連携を強化し、組織的に支援できる体制を確立する。また、関係機関との連携を強化する。	B	個別の教育支援計画・指導計画の作成徹底と活用をすすめた。教育相談部会において気になる生徒の情報を共有し、ＳＣにつないだり、ケース会議を開催するなどした。
いじめ防止等	すべての生徒にとって安心・安全な生活ができるいじめのない環境の確立	いじめを早期発見できる体制づくり	日常生活の中で生徒としっかりコミュニケーションをとり、生徒の様子を的確に把握する。また生徒の変化やサインに気付き、職員間で情報を共有し、担任を中心に組織的に早期対応する。	・「心のアンケート」を年３回実施して、生徒状況の把握に努める。 ・人権教育と結びつけ、生徒の心のきずなを深められるような講演等を行う。 ・学年団による情報交換を定例化し、いじめ事案が発生した場合、管理職への報告と対応マニュアルに沿って事実正確な情報を収集し、迅速に対応する。	A	年３回「心のアンケート」を実施し、いじめのサインを早期に発見、対応することによって、いじめの発生や重大化を未然に防ぐことができた。学年から挙がった情報を教育相談部会で精査し、すぐに対応することができた。
		いじめを早期解決する組織づくり	常に最悪の事態を想定し、担任、学年団を中心に組織的な対応を図る。			
地域連携（コミュニティ・スクール）	防災型コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の推進	学校運営協議会での共通理解と協力体制の構築 防災教育の充実	学校運営協議会の協力体制と防災教育を確立する。 学校防災（豪雨及び土砂災害・地震・津波等）マニュアルの職員間の共通理解。 日常的な防災意識を高めるための防災教育と避難訓練の実施。	・学校運営協議会を年３回実施する。 ・学校防災（豪雨及び土砂災害・地震・津波等）マニュアルの見直し、職員間での共通認識を図り、日常的に学校危機管理意識を高め、点検と確認を行う。 ・学校安心メールの積極的な活用。 ・避難訓練を年２回以上実施する。	B	第２・３回を玉名地区県立高校３校で合同会議を実施した。 マニュアルの見直しと土砂災害警戒区域避難計画を追以下作成し、玉名市へ提出した。日常的な危機管理については随時啓発している。また、校内の定期的に安全確認点検も実施している。 緊急時の安心メールの活用により円滑に活動できている。 ２回目の訓練の実施が遅れてしまったことと訓練の内容について見直していきたい。

４ 学校関係者評価
・様々なタイプの生徒がいる中で、生徒指導と学力向上の両輪で日々ご尽力いただき、地域の誇りの学校だと思う。特色のあるそれぞれの学科が、他の学校に見られない活躍が多くあり、素晴らしい学校だと思う。 ・進路に対して人材育成を図られることを期待したい。 ・生徒たちにとって魅力ある授業の工夫に努めてほしい。 ・生徒指導項目の整容指導では、職員や担任の一方的な指導だけでなく、生徒指導部と担任が連携した指導により減少したとあるが、何事も教職員と生徒が理解し、生徒自らが生徒指導にも主体的に参画してやらせることも一つの手法だと思う。

５ 総合評価
・整容や人権教育・いじめ防止など人として大切な教育の成果を上げていると思う。今後も学力向上も大切だが、生きる力がつく教育にも力を注いでほしい。 ・主体的に活躍している生徒の姿があり、一人一人を大切にした教育がなされていると感じる。地域の担い手として多くの人材を輩出している。学校の伝統と誇りを在校生に伝えてほしい。 ・学校教育目標である特色ある総合高校づくりにおいて、特に全職員が努力されているのが、数回の学校訪問で強く感じられた。生徒は、在学中はあまり感じないと思うが母校愛を感じるのは卒業後であり、それらは在学中に先生から本気のふれあいと友人達との関わりだと思う。総合高校として教職員、生徒と連携し、母校愛あふれる校風づくりに努めていただきたい。

６ 次年度への課題・改善方策
・デートＤＶやLGBT教育にも積極的なに取り組み。 ・今後も生徒が自己効力感を高められるよう何か困難な状況にあっても自分ならできるという自己を信じられる大人になれるよう社会に出たときに必要な教育にも取り組み。 ・授業の工夫が必要で生徒がわくわくするような魅力的な授業に取り組む。 ・生徒自らが考え、主体的に判断・行動し、学校活動をより有益に取り組めるよう手立てについて生徒会を中心に検討し取り入れていきたい。